

社会学部報

◇昭和51年10月27日 学部研究会 解説者 佐々木薫教授「K.G. S. L. の利用法について」

◇昭和51年11月17日 学部研究会 発表者山中良知教授「ジンメルにおける社会学と哲学」

◇昭和51年12月22日 学部研究会 発表者 萬成博教授「工場における技術と組織に関する調査研究：パイロット スタディ」

外国留学

真鍋一史助教授 昭和51年 9月10日から昭和52年 8月19日まで、政治社会学とコミュニケーション論の領域における基礎研究をつみ重ね、博士論文の理論的枠組準備および世論とコミュニケーションの関係についてイスラエルと日本の比較研究のため、イスラエル・ヘブライ大学およびコミュニケーションズ研究所へ。

会員の新著

森川甫教授 R. ストーフエル著「人間カルヴァン」(訳) 昭和51年11月, すぐ書房。

学会消息

◇日本社会学会

第49回日本社会学会大会は昭和51年10月12, 13の両日にわたって広島大学で開催された。本学から参加者は多数あったが、第1日万成博教授は、産業労働部門(1)で司会、小関藤一郎教授は、階層部門(1)で司会にあたったが、大道安次郎 名誉教授も 老人問題部会で 司会にあたられた。社会心理(2)で海野道郎専任講師は「偏見の構造——その2——在留外国人の存在構造(2)職業」について発表を行った。第2日 理論部会(7)で大学院の 藤原英男君は「T. パーソンのシンボル論の基本構造」について発表を行った。

◇日本グループ・ダイナミックス学会

日本グループ・ダイナミックス第24回大会は、昭和51年 9月25, 26日の両日にわたり、大阪大学人間科学部において開催された。本学部からの参加は次の通り。

佐々木薫(教授)「集団規範に関する実験的研究：監督者の圧力、生産水準規範および生産性の関係について」

辻村 徳治 (大学院修 1)・山口 真人・佐々木 薫(教授)「集団の決定方式がもたらす心理的効果に関する実験的研究」

◇日本時事英語学会

10月 2, 3日の両日、日本女子大学で第18回年次大会が行われ、西尾教授は学会副会長に選任された。

◇日仏社会学会

第2回大会が昭和51年10月14日大阪市竹中ホールで開催された。小関藤一郎教授が開会の挨拶に立った後、大学院生木下博道君は「デュルケムと近代」について報告を行った。なお、当日最後に蔵内数太元社会学部教授(本会名誉会員)が「フランス社会学と日本」と題する講演を行った。

◇関西心理学会

関西心理学会第88回大会は昭和51年10月31日大阪市立大学文学部において開催された。本学部から次の研究が報告された。

辻村 徳治 (大学院修 1)・佐々木 薫(教授)「職場集団の社会心理学的研究(I)」, 栗田喜勝・藤本忠明・田中国夫(教授)・植村 勝彦・新美 明夫「住民意識の類型化の試み」

◇日本労務学会

日本労務学会関西部会は12月 4日同志社大学会館で開かれたが、小関藤一郎教授は「最近のフランスの労使関係」について報告を行った。なお、日本労務学会の昭和52年度全国大会は、関西学院大学で開かれることになった。

執 筆 者 紹 介 （掲載順）

倉 田 和 四 生	社 会 学 部 教 授	嶋 田 津 矢 子	社 会 学 部 教 授
小 関 藤 一 郎	社 会 学 部 教 授	高 田 真 治	社 会 学 部 専 任 講 師
定 平 元 四 良	社 会 学 部 教 授	宮 田 満 雄	社 会 学 部 教 授
真 鍋 一 史	社 会 学 部 助 教 授	紺 田 千 登 史	社 会 学 部 助 教 授
海 野 道 郎	社 会 学 部 専 任 講 師	木 下 博 道	社 会 学 部 大 学 院 生
鏡 豊	東京工大理工学研究科社会学専攻博士課程在学		

社 会 学 部 研 究 会 々 員

会 長	倉 田 和 四 生				
評 議 員	小 関 藤 一 郎	定 平 元 四 良	本 出 祐 之		
	遠 藤 惣 一	津 金 沢 聡 広	紺 田 千 登 史		
会 計 監 査	牧 正 英	張 光 夫			
書 記	藤 田 耕 一				
普 通 会 員	杉 原 方	余 田 博 通	田 中 国 夫		
	西 尾 朗	嶋 田 津 矢 子	萬 成 博		
	領 家 穰	山 中 良 知	杉 山 貞 夫		
	半 田 一 吉	武 田 建	青 山 秀 夫		
	佐々木 薫	森 川 甫	中 野 秀 一 郎		
	中 山 慶 一 郎	J ・ ジ ュ イ ス	宮 田 満 雄		
	船 本 弘 毅	春 名 純 人	村 川 満		
	山 本 武 利	真 鍋 一 史	山 路 勝 彦		
	高 田 真 治	海 野 道 郎			

関西学院大学社会学部研究会々則

第1条 本会は関西学院大学社会学部研究会とよぶ。

第2条 本会は社会学および隣接諸科学の研究ならびに会員相互の親睦を計ることを目的とする。

第3条 本会は上記の目的を達するために次の事業を行なう。

1. 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」の発行。
2. 研究会および講演会の開催。
3. 研究叢書の刊行。
4. その他本会の必要と認める事業。

第4条 本会の会員は次の3種とする。

1. 名誉会員本会の特に推薦するもの。
2. 普通会員本学社会学部専任の教授，助教授，講師，および助手。
3. 賛助会員以上の外申込のあったもの。

第5条 普通会員は年額14,400円，賛助会員は年額10,000円以上の会費を納めなければならない。納付済の会費は返還しない。

第6条 本会員および本会社会学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の購読費は年額1,200円とする。

第7条 本会に次の役員におく。

1. 会長（1名）は，社会学部長をもってあてる。
2. 評議員（6名）は，普通会員の中から互選し，本会の運営に当る。
3. 編集，会計，庶務の各委員は，評議員の中から互選する。
4. 会計監査（2名）は，普通会員の中から互選する。
5. 書記は，社会学部事務長に委嘱する。

第8条 本会役員の任期は2年とする。重任を妨げない。

第9条 本会会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終る。予算決算は総会の承認を得なければならない。

第10条 総会は毎年1回とし，本会の重要事項を議決する。臨時総会の開催を妨げない。

第11条 本会は事務所を本学社会学部におく。

第12条 本会会則の変更は総会の議決によらなければならない。

1977年 1月20日 印刷

1977年 1月25日 発行

編集発行人 倉 田 和 四 生

印 刷 所 尼 崎 印 刷 株 式 会 社

電 話 大 阪 (06) 481-0707

〒 660 尼崎市北大物町 25

発 行 所 関西学院大学社会学部研究会

西 宮 市 上 ケ 原 一 番 町

関西学院大学社会学部内

電話(0798) (51)0912(代表)
(51)3512(直通)

KWANSEI GAKUIN

SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

No. 34

January 1977

The Study Association of Sociology Department

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

Nishinomiya, Japan
